

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (甲信越)		遊園地（職員）	来客数の動き	・料金の変更やタイアップ企画、期間限定イベント等の集客施策を実施したほか、天候にも恵まれ、3か月前と比べて、来客数の動きが良くなっている。
		その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	お客様の様子	・今月は葬儀依頼が多い。葬儀や永代供養墓の相談も毎日来ており、多い日は4～5件ほどある。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	販売量の動き	・季節のイベント等で、客の出足が良くなっている。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・売上は前年比で7月81%、8月115%、9月141%、10月112%である。来客数も7月109%、8月101%、9月98%、10月107%となっている。県の中小企業融資制度を利用して、金融機関の協力で借換えもでき、気分的にも資金繰りが楽になっている。1月までは前年を超えるともっている。消費税支払の積立で、冬場に向けての仕事の確保など、緊張感をもってやっている。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・冬支度が始まり、客が動き始めている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車販売が堅調である。新型車のイベントがないなかでも、販売台数は上向いている。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・来客数が少し上向いてきており、宴会の動きも良い。例年、余り良くない時期なので数字以上に良い気がしてしまう。忘年会シーズンまでこの調子が続くと良いのだが。
		観光型ホテル（支配人）	単価の動き	・最近、客室料、料理金額共に、値段が多少高くても良い物を求める傾向がみられる。
		都市型ホテル（支配人）	お客様の様子	・宿泊予約が顕著に入っている。また、客からの問合せでも「市内のホテルの予約がいつも取れない」と言われている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・8～9月の異常気象に比べて、安定した天候が続く、客の出足は良くなっているものの、財布のひもは固く、買上点数が伸びない。
		百貨店（売場担当）	お客様の様子	・婦人服の商況は変わらない。新規客が大きく増えることはなく、顧客商売で成り立っている。冬物重衣料が伸び悩み、一番伸ばししなければならないニットアイテムが苦戦している。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・天候は安定していて堅調だが、既存店の来客数が減少している。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・来客数の減少により、売上が伸びてこない。
		乗用車販売店（経営者）	単価の動き	・車検や一般整備は今月目標を若干だが上回っている。車両販売は低価格帯が多く、なかなか利益につながらない。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・台風の影響か、常連客の動きが悪い。
		一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・メディアでは上向きとの報道があるものの、実感はない。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・前月のような天候による影響はなかったものの、市長選挙が実施されることで動きが鈍かったようである。過去にも、選挙の大小はあるものの、選挙実施月は動きが鈍る傾向にある。
		旅行代理店（副支店長）	お客様の様子	・3年間の同時期と比べて、募集旅行の集客が落ちている。客のカウンター来店も鈍く、来店しても成約するケースは減少気味である。昨今、国内旅行は低迷してきているが、海外旅行者数は堅調である。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・新規加入者はほとんど伸びない上、反応も少ない。
		ゴルフ場（経営者）	来客数の動き	・ゴルフのコア層である高齢者が引退する5年後以降が見えない。業界全体でのゴルフ振興が求められる。
	美容室（経営者）	競争相手の様子	・既存の美容室の設備投資意欲はほとんどなく、あっても運転資金のみの対応である。新設店舗は前年に比べて3割くらい減少している。店舗売上は、なじみの固定客ばかりなので、さほど変わらない。	
	設計事務所（経営者）	来客数の動き	・計画の依頼は多くなってきている。	
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・別荘の見学客はやや増加しているものの、成約数は横ばいである。	

	商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街や諸団体が企画する催事もあるが、人の集まり方が少なく、なかなか盛り上がらない。平日は相変わらず開店休業状態で閑散としている。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・毎年、今の時期はそうだが、今年は特に、客足が悪いようである。いろいろなイベントはやるが、飲食店が幾らか良いだけで、普通の物販店はほとんど客が来ないという状態である。
	一般小売店〔家電〕（経営者）	お客様の様子	・消費者の購買意欲がみえてこない。必要な物や事への出費はするが、必要のない物、事へは、興味すら示さない。
	スーパー（経営者）	競争相手の様子	・広告チラシ回数が増えている上に、特売単価も下がってきている。
	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・10月からたばこが増税された関係から、今月前半は客が若干減っている。月後半は非常に寒くなってしまい、朝の時間帯の客が非常に少なかったことなどが影響して、全体的に良い成績ではない。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・たばこの値上げにより、今月前半はたばこ客の来店が大きく減少し、20日以降まで回復は待たされた。
	コンビニ（店長）	販売量の動き	・やはりたばこ増税の影響が出ているようで、絶対的な客数も減ってきている。たばこと一緒のついで買いが無いというのが痛い。
	自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・主要仕入先の単価は値上げ傾向が強まっているものの、店頭価格へ上乘せできない。
	観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・春から夏は個人客が多く、個人需要はインターネット経由の予約が安定しているため、おおむね横ばい傾向である。一方、秋から忘年会シーズンは、観光旅行や会社関係などの団体需要が多い時期となる。団体需要は年々減少傾向で、今秋の売上も苦しい。
	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・10月の法人宴会の売上が前年比で15%落ちている。ホテルの宿泊、料飲部門も全て前年割れとなっている。
	タクシー運転手	販売量の動き	・運行回数が減っている。特に、夜は金曜、土曜以外はものすごい減り方である。
	× 一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・毎年、農繁期の動きは悪いが、今年は特にひどい。
	× スナック（経営者）	お客様の様子	・客の様子と回答したが、競争相手の様子などもある。とにかく本当に暇で、少しばかりの努力では、追いついていけない。何か良い方法はないだろうか。
企業動向関連 (甲信越)	-	-	-
	*	*	*
	食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・秋の涼しい天候になったが、期待していた受注量に届いておらず、目標未達のおそれがある。
	窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・季節商材の受注対応はあるものの、特注品等の受注はなく、依然として低迷路線である。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・引き続き、民間案件の受注はあるが、公共工事はない。
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・米中貿易問題の影響が、一部製造業の受注に及び始めているものの、全体の受注は高水準を維持している。非製造業も機械器具や民間建築など設備投資関連需要が底堅く、全産業では緩やかな回復が続いている。
	金融業（経営企画担当）	取引先の様子	・富士山周辺の観光地では、観光客が堅調に推移しているものの、増加傾向なのは個人客で、宿泊料金の増加にはつなげていない。
	新聞販売店〔広告〕（総務担当）	取引先の様子	・ガソリン、灯油類の急激な値上がりにより困惑している。観光バス会社では、「最需要期でもあり利益を圧迫している」と話している。今月のチラシ出稿量は前年比88.1%と低迷している。
	食料品製造業（製造担当）	それ以外	・原料、包装資材などが相次いで値上げしている。更に原油高で製造コストが上がり、かなり厳しい状況である。
	食料品製造業（営業統括）	競争相手の様子	・ガソリン価格高騰による来場者の減少や、9月の長雨の影響による原料の入荷量減少等で、前年を下回っている。
電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・量産が少なく、受注が若干減ってきている。	

	その他製造業 [宝石・貴金属] (経営者)	受注量や販売量 の動き	・消費者向けの展示会は集客難で、ごく少数の上得意客の購入に頼るところが大きく、売上は大きく落ち込んでいる。また、業者向けに今月開催された国際宝飾展は、売上の80%近くが中国からのバイヤー分で、国内バイヤーの購入率は20%程度と、国内マーケットの低迷が続いている。	
	x	*	*	*
雇用 関連 (甲信越)		-	-	-
	職業安定所 (職員)	周辺企業の様子	・新規求人数の増加とともに、周辺企業から、「前年より生産、採用状況は落ち着いているが、依然、受注は安定している」と聞いている。また、人材派遣業では、「ここ数か月、以前より派遣相談が増加している」とのことである。	
	職業安定所 (職員)	周辺企業の様子	・周辺企業の様子に加えて、有効求人倍率が前月より更に増加している。	
	人材派遣会社 (営業担当)	雇用形態の様子	・求人条件は、職業安定所や求人広告共に変わっていない。実際に勤務につくと、紙面情報とは違う状態で、正社員の言葉に惑わされることが多く、退職者は後を絶たない。そのため、相談に来る方は多く、変わらない。	
	求人情報誌製作 会社 (経営者)	採用者数の動き	・有効求人倍率は上昇で推移している。業種により格差はあるが、依然として人手不足が深刻である。	
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・新規求人は、建設業では前月求人増の反動からか、小口求人を中心に前年より減少している。販売小売業も新規出店が落ち着き、前年より減少している。また、最低賃金の改定時期でもあり、全業種で労働条件の見直しのため、求人申込み時期がずれ込む傾向がある。	
		-	-	-
	x	-	-	-